



医学教育企画評価室（PCME）の新しい支援について （第14回筑波大学技術職員 技術発表会報告集）

著者	菅江 則子, 嶋村 玲子, 廣瀬 美鈴, 岩本 いく子, 瀧本 和香子
雑誌名	筑波大学技術報告
号	35
ページ	28-30
発行年	2015-03
その他のタイトル	New support for Planning and Coordination for Medical Education (PCME)
URL	http://hdl.handle.net/2241/00124088

医学教育企画評価室 (PCME) の新しい支援について

菅江 則子、嶋村 玲子、廣瀬 美鈴、岩本 いく子、瀧本 和香子

医学系技術室 (医学教育企画評価室 (PCME))

〒305-8575 茨城県つくば市天王台 1-1-1

概要

筑波大学医学類では、平成 16 年度に新カリキュラムが導入されてから 10 年を迎える。小人数グループで行う、提示されたシナリオと呼ばれる事例から問題を抽出し、解決していく PBL(Problem based learning)テュートリアル教育 (1 年次～ 3 年次)、参加型臨床実習(4 年次9 月～)前の身体診察実習や、臨床基本手技実習等の支援を行ってきたが、内外の状況の変化から、カリキュラムを見直す必要がでてきており、新たな支援が必要となってきた。

キーワード: 定員増、共用試験実施時期の変更、臨床実習開始時期の変更

1. はじめに

新カリキュラムが導入された平成 16 年度は、1 学年 100 人として PBL(Problem based learning)テュートリアルのグループ数を 13(各グループ7 名～ 8 名) 設定していたが平成 26 年度は学生数が 120～ 130 人となりグループ数を 15(各グループ8 名～ 9 名) で実施している。1 コースのテュートリアルには基本的に、2 回のコアタイムが設定されており、グループごとに 1 名の教員がテューターを担当する。このテューターの依頼は年 2 回、春学期、秋学期ごとにのべ 400 名弱の教員へ行ない、日程を調整している。各教員は年間平均 2 コースから 3 コースを担当する。また、グループ数が 13～ 15 となり、使用する部屋を確保するのが非常に困難になってきている。

4 年次に例年 6 月に行っている、共用試験の実施時期が平成 28 年度より、全国的に 9 月から翌年の 3 月までと、大幅に変更になることが共用試験機構で決定された。さらに Student Doctor という認定を受けないとクリニカル・クラークシップ (参加型臨床実習) に進めない、新しい制度も発足した。このような変更に伴い、4 年次の 8 月末から開始していた、筑波大学のクリニカル・クラークシップ (C.C. と記す) が現在のカリキュラムでは実施できなくなる。

このような状況の変化にそくして、カリキュラムの見直しが検討され、それに伴い、支援の方法も変わって行かざるを得なくなってきた。

2. テュートリアルについて

小人数グループで行う、提示されたシナリオと呼ばれる事例から問題を抽出し、解決していく方法を問題抽出型 PBL(Problem based learning) テュートリアル教育という。1 年次から 3 年次は、すべてのこの方式でカリキュラムが組まれている。小グループの数が 13 から 15 に増え、教室、担当教員の手配

は、大変な負担となっている。そこで新しい TBL(Team based learning)方式が導入されはじめている。これは事前に習得した基礎知識を元に教員が提示した応用問題への考察を通して基礎知識を統合するグループ学習ではあるが大教室で実施することにより、テューター数を半部以下に削減可能となる。PBL テュートリアルでの問題点がある程度解消される。この TBL の実施報告は次回行いたいと思う。

3. 臨床実習前の実習

3.1 身体診察実習と C.C.準備教育

臨床実習に参加するにあたり、頭頸部、胸部、腹部、筋骨格・生殖、神経の身体診察の演習が実施される。4 グループが一つの班となり各項目を 6 日間で終了する。また、5 週間をかけて臨床基本手技 (静注・点滴・外科手技・救急処置)、看護師さんとのチーム医療、医療情報、薬剤部、輸血、手術部、医療面接と様々な実習が組まれている。5 グループが一つの班で実習するが学生数の増加に伴い、2 年前から実施期間が 4 週から 5 週に変更された。しかし更なる学生数の増加から 1 班の人数が 20 人を超え 25 人を超える可能性がでてきており、実習担当の教員の負担、実習シミュレーター数の不足などから 1 班の人数を減らし実習期間をさらに延ばす必要がでてきている。



写真 1.救急実習の様子

4. 共用試験 (CBT ・ OSCE)

共用試験 CBT(Computer Based Testing)と OSCE(客観的臨床能力試験)は、現在、筑波大学では 6 月に実施し、合格した学生は 8 月末からクリニカル・クラークシップ(参加型臨床実習)に参加する。平成 26 年度から、全国的に CBT 試験の合格基準が示された。その基準を満たした学生は Student Doctor と認定され、C.C.に参加できる資格が与えられる。

この共用試験の実施時期が平成 28 年度から大きく変更になる。現在は 12 月～ 3 月、4 月～ 9 月と 2 期にわかれ実施されていたが、変更後は 9 月から翌年の 3 月までの間となる。そのため現在 6 月に実施している本学の試験時期を変更せざるを得なくなってきた。それにより臨床実習に参加する時期も大きく変わり、今後カリキュラムの見直しをせざるを得ない状況である。

5. 白衣授与式

平成 23 年度から臨床実習開始直前に白衣授与式 (Clinical clerkship mission statement 宣誓式) を実施している。医学群長、医学類長、附属病院長、M4 総コーディネーターら計 5～6 名の教員に直接白衣を授与してもらい、実習に臨む行動規範を宣誓する儀式である。白衣には名札と行動規範を記したカードが与えられる。今年度からは新たに制定された Student Doctor の認定証も授与された。



写真 2. 白衣を着せてもらっている様子



写真 3. Student Doctor の認定証授与の様子

6. まとめ

今後について

今回報告した内容の他にも多くの項目で変更がある。学生数の増加、技術職員の不足に伴い支援の方法を変えていく必要がある。仕事内容の合理化や、外注その他、出来る範囲で対応していかなければならないと考える。しかし支援の質は保っていかなければならない。カリキュラムの変更にも対応できるよう努力していきたいと思っている。

New support for Planning and Coordination for Medical Education (PCME)

^{a)} Noriko Sugae、 Reiko Shimamura、 Hirose Misuzu、 Ikuko Iwamoto、 Wakako Takimoto

^{a)} Technical Service Office for Medical Science, University of Tsukuba,
1-1-1 Tennodai, Tsukuba, Ibaraki, 305-8575 Japan

Abstract It has been ten years since the University of Tsukuba School of Medicine introduced its new curriculum in the academic year 2004/2005. From the 1st year through 3rd year, the curriculum consists of problem-based learning (PBL) tutorials, in which students are presented with case studies called scenarios from which they select and solve problems. In the first half of the 4th year, we offer students physical exam training, basic clinical skill training and so on as a preparation for clinical clerkship starting from September of the year. Due to changes in internal and external circumstances, however, the curriculum needed to be revised, and new support has been needed.

Keywords: ncreased enrollment, change in period of implementation for common achievement test, change in period for start of clinical clerkship